

# メカニク知っ得講座 父

解説：ナスポート チーフメカニック 那須勝之

## バッテリー編

皆さん、マイボートのバッテリーは大丈夫ですか？  
海上でのトラブル第1位がこのバッテリー関連ではないでしょうか！

よく『冬場にバッテリーが上がって困る』と言う話を聞きますが、これは単に冬季は船の使用頻度が減り、エンジンでの充電が出来てないということが原因です。  
以外に思われるかも知れませんが、実際は気温の高い夏場のほうが化学反応が活発になり、自然放電の割合は大きいのです。

船に搭載されるバッテリーは、自動車に使用されているものと構造はほぼ同じですが、最近GPS魚探、ウインドラス、ステレオ、インバーターなど、電力消費するオプションが多い為、容量の大きなものが搭載される傾向にあります。

バッテリーには大きく分けて2種類あります。

- ① **スターティングバッテリー** ……………
- 皆さんが目にするほとんどがこのタイプで、エンジン始動時に、短時間に大電流を放電する為に設計されています。
  - ちなみに200馬力の船外機は160アンペア、300馬力の船内外機は300アンペアの大電流を消費します。



手前：スターティングバッテリー  
奥：ディープサイクルバッテリー

- ② **ディープサイクルバッテリー** ……………
- バスボートのエレキ用などで使用され、特性としては、小電力を長時間電気を使い続ける機械に適しています。
  - 空っぽになるまで電気を放電し、また充電を繰り返しても痛まない構造になっています。
  - しかし、瞬間的な大電流は得られないので、エンジン始動用には不向きです。

最後に、バッテリートラブルを回避する方法として、予備バッテリーを搭載し、ロータリー切替えスイッチでツインバッテリーにしたり、もっと高度に、アイソレーター装着によりオルタネーターからの電流を分離し、均等に充電するシステムが考案されています。

ツインバッテリーにする時の注意点としては、大きさの異なるものや新品と古いものの併用は避けて下さい。

### おまけ情報!!



バッテリーの自然放電を食い止める方法として、環境に優しいソーラーパネル(太陽電池)の利用があります。

ボートショップで売られている2~3万の小型パネルでも、気象条件によりますが1ヶ月当り50~60アンペアの充電が可能で、数ヶ月船に乗る機会がなく放置してい

ても、たいていエンジンは始動します。

また、係留保管でオートビルジポンプを使用される方にも効果的ですのでお勧めのオプションです。